万能自律機械学習システム１５　　2014/02/15（土）

「万能自律機械学習システム１４」で書き足りなかったことを、更に追加します。そこでは、格とオブジェクトと動詞とからなるコマンドだけを考えていましたが、実際には修飾語とか、文がオブジェクトになる場合があります。これらがあると、文は無限に大きくなることが可能です。これを解決するには、文・・・文章というものが入れ子構造であることに着眼することが重要です。同じ、アルゴリズムを繰り返し適用するという方法で、対応します。つまり、修飾語はその場で、一つのオブジェクトに縮約するのです。文とか句とかが塊になっていれば、そのきっかけを捉えて、処理を分岐して初めの２項関係から文を組み立てていくのです。

この辺の考え方は、ＡＴＮ（拡張遷移ネットワーク：Augmented Transition Network）と同じです。ＡＴＮは昔、英文解析のアルゴリズムとして一世を風靡しました。今も使われていることでしょう。学習的にＡＴＮを完成させていきましょうというのが、この頃のシリーズの考え方です。

おわり